

平成24年度

事業報告書

平成24年8月1日から
平成25年3月31日まで

平成25年6月

公益財団法人日本宇宙少年団

目 次

まえがき	・ ・ ・ ・ ・	P. 2
I 公益目的事業	・ ・ ・ ・ ・	3
1 宇宙こどもプラットフォーム事業	・ ・ ・ ・ ・	3
(1) 宇宙飛行士参加プログラム		
① 星出宇宙飛行士とのリアルタイム交信イベント	・ ・ ・ ・ ・	3
② ハローアストロノーツ	・ ・ ・ ・ ・	4
(i) 福井県小浜市		
(ii) 名古屋市科学館		
(2) 国際交流		
① 日本の衛星観測データを利用した宇宙教育プログラムの紹介	・	5
(3) 特別プログラム		
① 名古屋市科学館開館50周年記念事業	・ ・ ・ ・ ・	6
② ロケットガール& ボーイ養成講座 YAC チーム	・ ・ ・ ・ ・	7
2 スペースキャンプ事業		
(1) 宇宙体験キャンプ		
～南三陸町の子ども達を種子島宇宙センターへ～	・ ・ ・ ・ ・	8
(2) 銀河教室 in つくばキャンプ	・ ・ ・ ・ ・	9
(3) ケネディスペースキャンプ	・ ・ ・ ・ ・	9
(4) 種子島スペースキャンプ 2013 春	・ ・ ・ ・ ・	10
3 宇宙こどもワークショップ2012事業		
(1) 日本水ロケットコンテスト2012	・ ・ ・ ・ ・	11
(2) その他ワークショップ	・ ・ ・ ・ ・	12
4 衛星データ利用事業		
(1) 第2回衛星データ利用コンテスト	・ ・ ・ ・ ・	13
5 団体との連携事業		
(1) 連携団体との連携協力	・ ・ ・ ・ ・	13
(2) 連携団体長会議	・ ・ ・ ・ ・	14
6 情報発信事業		
(1) 宇宙教育テレビ	・ ・ ・ ・ ・	15
(2) 宇宙情報誌の発行・編集協力等	・ ・ ・ ・ ・	15
(3) ホームページ	・ ・ ・ ・ ・	16
(4) Web の利用	・ ・ ・ ・ ・	16
7 教材事業		
(1) 教材の制作及び発送	・ ・ ・ ・ ・	16
8 講師派遣事業		
(1) 玉川高島屋「2012 たまがわ宇宙展」	・ ・ ・ ・ ・	17
(2) 東京都両国地区体験活動	・ ・ ・ ・ ・	17
9 催事活動（後援等）	・ ・ ・ ・ ・	18
10 パネル等の貸し出し	・ ・ ・ ・ ・	18
II 運 営		
1 役員会	・ ・ ・ ・ ・	18
2 経理概況	・ ・ ・ ・ ・	19
3 業務執行体制	・ ・ ・ ・ ・	19
4 活動委員会の設置	・ ・ ・ ・ ・	19
5 団員及び分団	・ ・ ・ ・ ・	20
6 会員へのサービス	・ ・ ・ ・ ・	21
7 寄附金税制、活用の推進	・ ・ ・ ・ ・	21
8 YAC パンフレット、入団案内	・ ・ ・ ・ ・	21
9 協賛会社	・ ・ ・ ・ ・	21

まえがき

今回は、平成24年8月1日より正式に公益財団法人日本宇宙少年団（公財YAC）となった最初の事業報告となります。従って、平成24年8月1日の登記の日から平成25年3月末までの8ヵ月事業の実施報告を示すものとなっています。

平成24年度の公益財団法人日本宇宙少年団（公財YAC）としての活動は、昨年9月の第1回理事会において承認いただいた事業計画書に示しました活動の基本方針に基づき、平成25年度に向けての事業を推進するための基盤を確立するための活動と位置付けて実施してきました。特に、平成25年度において事務局職員の減少を念頭に入れて業務の効率化を目指す一方で、これまでと同様、公財YACの会員（団員、分団）に対する支援、サービスを維持するとともに向上を図る方策を考えながら事業を進めてきました。更に、事業の実施に当たっては、旧財団法人において財務状況が逼迫していたことに鑑み、寄付金、賛助金についての見通しを立てた上で事業を実施する努力も行なってきました。

これ等基本方針に従った事業推進、活動を行なう努力を最大限図ってきましたが、これまでの経緯もあり十分には浸透できないところもあったために、不十分な結果となったところもありますが、全体的に考えると、公益財団法人としての再出発としては、及第点になったのではないかと考えています。

公益財団となった後も当財団の発展と事業推進のため賛助等にご理解とご協力をいただきました賛助会社の皆様方には、厚く御礼申し上げます。ここ数年、新規分団が年間平均で約5分団程度設立され、分団数増加に伴い団員数も増えております。このことから、これまでと同様に分団支援、連携協力の下、日本宇宙少年団(YAC)の活動の向上と社会的な認知度を上げるべき努力を引き続き行っていく所存です。

これからも職員一同、真剣にかつ最大の努力を図って公財YACの成長と発展を目指すつもりです。その為には、皆様方からの御意見等を是非お伺いしたいと思っています。

I 公益目的事業

1 宇宙子どもプラットフォーム事業

「宇宙子どもプラットフォーム」は、「子どもや保護者が一緒に交流できる場」として、宇宙に携わる様々な現場のプロフェッショナルたちが子どもとその保護者を含めて交流、対話し、彼らの仕事への情熱、科学の面白さを子どもたちに伝えるものです。また、保護者は子供たちの興味、関心を理解し、応援してあげられるように保護者と子どものコミュニケーションの機会を提供することで、次世代の育成に貢献する事業です。

本事業は、日本宇宙少年団(YAC)の地域・全国規模での一般参加型活動として、全国の子供たちに参加の機会を与えられるように工夫すると同時に、従来の分団活動との相互交流・活性化を図ることで、YACが展開する「ホンモノ体験」の一環として地域社会への貢献を目指すものです。

本事業は、次の3つのプログラムにより構成されます。

- (1) 宇宙飛行士参加プログラム
- (2) 国際交流
- (3) 特別プログラム

(1) 宇宙飛行士参加プログラム

人類の夢・期待を背負って活動する宇宙飛行士の姿は、子どもたちの心に火をつけるほどのインパクトがあります。このことから、将来子ども達のチャレンジする夢や希望、勇気を育む人材育成を目的として以下2つの事業を行いました。

① 星出宇宙飛行士とのリアルタイム交信イベント

【目的】

国際宇宙ステーション (ISS) に滞在中の星出宇宙飛行士と直接ライブで質疑応答や解説してもらうことにより、宇宙ステーションでの暮らしには様々な工夫が施され、宇宙ステーションが効率的に無駄なく利用されていることを子ども達に知ってもらうことを目的としています。更に、宇宙飛行士の宇宙での暮らしについて子どもたちの興味や関心を高め、自分の身のまわりの生活環境と宇宙環境では何が違うか等、子ども自身が想像し、答えを予測し考えを巡らすことを楽しみに感じてもらうことも期待しています。

【タイトル】 コニカミノルタ presents 「天空未来教室」

【時期】 平成24年8月9日 (木)

【場所】 東京 (コニカミノルタ天空プラネタリウム)
大阪 (ソフィア堺プラネタリウム)
広島 (広島市子ども文化科学館)

【参加人数】 東京：200人、堺：100人、広島：300人

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【共催】 コニカミノルタプラネタリウム(株)、堺市教育委員会、(財)広島市未来都市創造財団

【特別協賛】 コニカミノルタホールディングス(株)

【協 力】 宇宙航空研究開発機構、大阪府立大学、日本サブウェイ(株)

【実施概要】

I S Sに長期滞在している星出宇宙飛行士と地上とで直接交信するイベントの開催にあたり、公財Y A Cは、全国子ども達に参加を呼びかけると同時に、あらかじめ星出宇宙飛行士が行うミッションを学習させ、宇宙での食育にかかわる星出宇宙飛行士への質問を募集しました。本イベントは、3つの会場とI S Sをテレビ会議システムでつないで実施しました。また、I S Sとの交信以外の時間を使って、東京会場からJ A X A宇宙科学研究所の阪本成一教授、大阪会場から国立天文台副台長の渡部潤一教授、広島会場から前国立天文台台長、現・広島大学の観山正見特



任教授とライブでつないでパネルディスカッションを行いました。その後、植物工場の第一人者である大阪府立大学村瀬治比古教授を迎え、今回のテーマでもある宇宙での食育に関連し、「長期滞在に向けた食物供給としての宇宙農場の可能性」についてのお話しを東京から3つの会場の子もたちに分かり易く解説いただきました。

参加した子ども達は、直接宇宙飛行士との対話をきっかけに、宇宙飛行士を志す夢や希望を育み、将来の夢へ向かってチャレンジし続ける気持ちを持つ事の大切さを学びました。



② ハローアストロノーツ

【目 的】

宇宙飛行士と交信し対話するだけでなく、参加する子ども達に対して、宇宙飛行士の訓練内容や宇宙での生活等を学ぶ講座を事前に行い、宇宙及び科学についての知識を高め、興味や関心を深く掘り下げて宇宙の不思議を考えることを目的に、宇宙飛行士との交流機会が少ない地方の子ども達への有効な教育プログラムとして、次の2箇所で行いました。

(i) 福井県小浜市

(ii) 名古屋市科学館

(i) 福井県小浜市

【タイトル】 ハローアストロノーツ in 小浜

【時 期】 平成24年8月26日(日)

【場 所】 福井県小浜市、サン・サンホーム小浜

【参加人数】 30名

【主 催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【共 催】 日本宇宙少年団 若狭分団

【協 力】 宇宙航空研究開発機構、小浜市教育委員会

【実施概要】

米国ヒューストンと日本国内の開催地をインターネットのテレビ会議システムで結び、ヒューストンにいる金井 JAXA 宇宙飛行士と子どもたちが直接交流をする活動を、JAXA、小浜市教育委員会の協力により実施しました。

子どもたちは、勉強やスポーツなど、自分たちの頑張っていることを金井宇宙飛行士に伝えた後、次々と質問し、最後に、金井宇宙飛行士から、「宇宙飛行士にとって一番大切なものはチームワーク、学校で友達が困っている時は、いつでも助けてあげるという気持ちで過ごしてほしい」と参加した子ども達にエールを送りました。金井宇宙飛行士との対話によって、宇宙への興味を一層感じるようになった、との感想が多く寄せられました。



(ii) 名古屋市科学館

【タイトル】 ハローアストロノーツ in 名古屋

※名古屋市科学館開館 50 周年記念事業プログラムの一部

【時 期】 平成 24 年 11 月 24 日 (土)

【場 所】 名古屋市科学館 サイエンスホール

【参加人数】 中学生・高校生 156 人

【主 催】 公益財団法人日本宇宙少年団、名古屋市科学館

【協 力】 宇宙航空研究開発機構

【実施概要】

米国ヒューストンと日本国内の開催地をテレビ会議システムで結び、ヒューストンにいる油井 JAXA 宇宙飛行士と子どもたちが直接交流をする活動を名古屋市科学館と協働で実施しました。

※特別プログラム「名古屋市科学館開館 50 周年記念事業」参照



(2) 国際交流

① 日本の衛星観測データを利用した宇宙教育プログラムの紹介

【目 的】

人工衛星に係る潜在的なユーザーや利用形態の開拓等、宇宙利用の裾野の拡大を行う目的の一環として文部科学省からの委託を受けたプログラムで、地球観測衛星による観測データを子どもたちが能動的に利用する教育方法を構築し、国内での実証を行なってきました。これらの経験を踏まえ、この教育方法を幅広く利用してもらうことを目的に、海外でのこども教育の啓蒙の一環として委託事業の協力者であり YAC 分団関係者を国際会議に派遣

しました。

- 【タイトル】日本における衛星観測データを利用した宇宙教育プログラム
【時期】平成24年10月1日から5日
【場所】イタリア・ナポリ
【派遣】日本宇宙少年団おおいた分団 分団長 高橋 徹(大分高専教授)
【実施概要】

第63回国際宇宙会議 (International Astronautical Congress) において教育方法の構築と国内での実証結果についての紹介論文“DEVELOPMENT OF THE SPACE EDUCATION PROGRAM FOR THE NEXT GENERATION USING EARTH OBSERVATION DATA” (共著; 高橋徹、臼井敏夫、藤島豊久、安田みお、小定弘和、大木真人) が採択されたことから、同会議の「子ども宇宙教育部門」での論文発表を行ないました。この論文は、YACが文部科学省に申請をして得た予算によって3年間のプロジェクト(「将来の幅広い分野での衛星データ利用を目的とした子ども向け人材育成プログラムの開発及び全国での実証」)の結果報告として発表を行いました。

また、海外の宇宙教育の現状を把握することを目的に、発表のほか宇宙教育のセッションに参加し聴講し、YACの活動や開発された教育プログラムあるいは教材などの大切さや必要性を認識し、諸外国の参加者との意見交換を行いました。

(3) 特別プログラム

① 名古屋市科学館開館50周年記念事業

地球環境プロジェクト ～宇宙からのメッセージ～

※プログラムの一部に「ハローアストロノーツ」を含む

【目的】

ガガーリン少佐の人類宇宙飛行から50年。丁度、日本でも小型ロケットの実験が始められた頃です。なぜ人類は宇宙を目指すのかを振り返り、未来へ挑戦し続ける宇宙開発の果たす役割を啓発すると共に私たちの住む「地球」の環境問題に触れ、地球を大切にする気持ちを育むことを目的とします。

【タイトル】地球環境プロジェクト～宇宙からのメッセージ

【時期】平成24年11月24日(土)

【場所】名古屋市科学館 サイエンスホール

【参加人数】156名(子ども 78名 大人 78名)

【主催】公益財団法人日本宇宙少年団、名古屋市科学館

【協力】宇宙航空研究開発機構

【実施概要】

国際文化研究センター安田喜憲教授から、私たちの住む地球を「宇宙船地球号」を例に、かつて太平洋上の離れ小島であるイースター島の文明の絶滅から、宇宙空間という絶海の孤島に浮かぶ地球という惑星の環境問題にふれ、地球の貴重さ、素晴らしさについて、安田教授の



イースター島での研究成果などを含めて基調講演がなされました。子どもたちとの質問時間では、子どもたちからは多くの質問が寄せられました。また、株式会社タダノがイースター島で行ったモアイ像修復によるプロジェクトを映像で紹介されました。次に、日本における地球観測の先駆けである坂田俊文東海大学情報技術センター所長・教授から、これまで坂田先生自身が実践されてきた活動の一部を「宇宙考古学」として、人類の古代文明を宇宙の視座から発見できた成果について話がなされ、子どもたちに宇宙開発利用についての重要性を考えさせることとなりました。



参加者アンケート

イベント全体について	非常に良かった	67.8%	良かった	22.5%
イベントの認知経路	その他（学校、紹介）	28.2%	YAC 団員	26.8%
参加してみたいイベント	宇宙飛行士交流	27.3%	スペースキャンプ	22.7%
参加してきたいイベントのテーマ	宇宙飛行士	28.9%	ロケット	25.6%
	ロボット	23.9%	衛星	21.7%

② ロケットガール&ボーイ養成講座 YAC チーム

【目的】

ロケットガール&ボーイ養成講座YACチームは、大学生のサポートを受けた高校生が小型のハイブリッドロケットを自ら設計・製作・打ち上げ実験に挑戦するプログラムで、打上成功が目的ではなく、製作の過程でものづくりの面白さ、チームワークの大切さ、モノづくりを柱とするプロジェクトマネージメントなどを学ぶことによって理工系の人材を育成することを目的とします。

【タイトル】 ロケットガール&ボーイ養成講座 YAC チーム

【時期】 平成25年1月13日～3月31日

【場所】 関東の大学（打ち合わせや制作）、伊豆大島（打ち上げ実験）

【参加人数】 21名（高校生8名、大学生13名）

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団（YAC チーム）、「理数が楽しくなる教育」実行委員会（ロケットガール&ボーイ養成講座）

【協力】 CORE（関東の大学生のハイブリッドロケットチーム）、宇宙航空研究開発機構

【実施概要】



平成25年1月にキックオフミーティング、3月3日に中間発表会を行い、3月14日～17日の期間、伊豆大島の裏砂漠で打ち上げ実験、3月31日にまとめの全体会を行いました。4月20日に開催された「第3回高校生の宇宙教育シンポジウムにて、YACチームの高校生メン



バーが活動の発表を行い、その様子はインターネット放送され、高校生の宇宙教育プログラムを考える大人や、ほか活動に参加した高校生たちに共有されました。



2 スペースキャンプ事業

本事業は、全国の青少年に対し、『宇宙・自然・交流』をテーマとした人材育成プログラムを通して、「いのちの大切さ」を基本に、青少年に潜在する「好奇心」「冒険心」「匠の心」を育み、団体行動を通して友情・親睦を深めることを目的とし、本年度は、次の4つの宿泊型キャンプを行いました。

- (1) 宇宙体験キャンプ～南三陸町の子ども達を種子島宇宙センターへ～
- (2) 銀河教室 in つくばキャンプ
- (3) ケネディスペースキャンプ
- (4) 種子島スペースキャンプ

(1) 宇宙体験キャンプ～南三陸町の子ども達を種子島宇宙センターへ～

【目的】

早稲田大学内田和成ゼミ Save Japan Project（セーブジャパンプロジェクト）（WSJP）、南三陸町教育委員会の協力のもと、南三陸町の小学校4年生～6年生をJAXA種子島宇宙センター、JAXA筑波宇宙センターへ招待し、最先端の科学技術と初めて訪れるロケット打上げの地種子島の自然に触れ、震災という経験がもたらす影響を乗り越え、子ども達の将来の希望の一助になることを目的とします。

【時期】平成24年8月18日～21日（3泊4日）

【場所】JAXA種子島宇宙センター、JAXA筑波宇宙センター

【参加者数】南三陸町 小学4年生から6年生 22名
（志津川小学校8名、戸倉小学校5名、入谷小学校3名、
入里前小学校4名、名足小学校2名）
及び引率者等を含め合計33名

【主催】公益財団法人日本宇宙少年団

【協力】早稲田大学内田和成ゼミ Save Japan Project (WSJP)、種子島観光協会、宇宙航空研究開発機構

【実施概要】



JAXA筑波宇宙センターの見学を皮切りに、種子島に渡って観光協会の協力でウミガメの放流体験、マングローブでのカヤックツアーを経験しました。また、地元の小学生との交流会や種子島宇宙センター内にある「宇宙科学技術館」では、ロケットはもちろん、人工衛星や国際宇宙ステーション計画、地球観測、天体・惑星など、宇



宙開発におけるさまざまな分野について、実物大モデルやゲームなどを使って、宇宙について学びました。

※ 本企画実施に必要な費用は、WSJPの事業で集めた寄付金により負担してもらいました。

(2) 銀河教室 in つくばキャンプ

【目的】

工作や天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、JAXA筑波宇宙センターで行われている宇宙飛行士訓練模擬体験を通し、宇宙飛行士にもとめられる「コミュニケーション能力」や「場をなごませる力」を学び、仲間作りの方法や社会のルールを学び、心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

【時期】平成24年8月22日～24日（2泊3日）

【場所】JAXA 筑波宇宙センター

【参加人数】体験者40名、引率者9名

【主催】公益財団法人日本宇宙少年団、毎日新聞

【共催】新日本製鐵(株)

【協力】宇宙航空研究開発機構

【実施概要】

最初に筑波宇宙センターの中の施設を見学した後、的川泰宣先生による講座では「自分で考え、自分で調べると、人間として力がついてきます」という話があり子どもたちにとって貴重な機会となりました。宇宙ホンモノ体験として、閉鎖環境適応模擬訓練、緊急対処模擬訓練、船外活動模擬訓練、宇宙ローバー操作模擬体験を全員行いました。また班ごとにこども座談会（テーマ：宇宙飛行士になって実現したいこと）を行い、最後に各班に与えられたミッションに対する報告会を実施しました。



(3) ケネディスペースキャンプ

【目的】

日本通運(株)東京旅行支店が企画するケネディー宇宙センター見学とスペースキャンプ体験プログラムに協力し、参加者により米国の宇宙開発を身近に体験してもらい、NASAの宇宙および科学技術の理解増進を図ることを目的にYAC団員や一般に対し広く参加募集を行いました。

【期間】平成24年8月21日～27日（6泊7日）

【場所】米国フロリダ州NASA ケネディースペースセンター

【参加人数】参加者小学3年生～6年生 7名

【主催】日本通運(株)東京旅行支店

【協力】公益財団法人日本宇宙少年団

【実施概要】

NASAケネディー宇宙センターで開催される「スペースキャンプ」に参加し、サターンVロケットや宇宙船にふれ、チャレンジャー・ラーニングセ

ンターではシミュレーション体験、科学博物館でワークショップを行ないました。また、元 NASA 宇宙飛行士と交流、エコットセンターで実験未来都市を体験するなど、ホンモノ体験を行いました。

(4) 種子島スペースキャンプ2013春

【目的】

水ロケットや天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、自然体験活動、野外学習を通して、仲間作りの方法や社会のルールを学び、生活体験や自然体験からの感動する心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

【時期】平成25年3月25日～29日（3泊4日）

【場所】種子島全域（南種子町自然の家、種子島宇宙センター他）

【参加人数】60名 参加者内訳（女子）：鹿児島県 22（11） 福岡県 1
熊本県 1 宮崎県 2 岡山県 1 大阪府 2 兵庫県 2（1） 京都府 1
滋賀県 1 奈良県 2（1） 愛知県 8（3） 岐阜県 1 静岡県 2
東京都 6（1） 埼玉県 4（1） 茨城県 1 神奈川県 1（1） 宮城県 1
北海道 1

【主催】公益財団法人日本宇宙少年団、宇宙航空研究開発機構

【共催】日本宇宙少年団鹿児島地方本部

【協力】南九州コカ・コーラボトリング(株)

【協賛】(株)南九州ファミリーマート

【後援】鹿児島県、南種子町、中種子町、西之表市、鹿児島県宇宙開発促進協議会

【実施概要】

毎年子ども達の夏休みを利用し、宇宙・自然・交流をテーマとした宇宙開発に関わる学習、自然体験活動、野外学習におけるプログラムを立案し、小学生・中学生を対象にスペースキャンプを行っています。今回のプログラムは、宇宙開発に関わる学習では、南種子町にて日本のロケット打上げの最前線現場である種子



島宇宙センター施設特別見学、同センター内の会議室を借りて宇宙及び科学

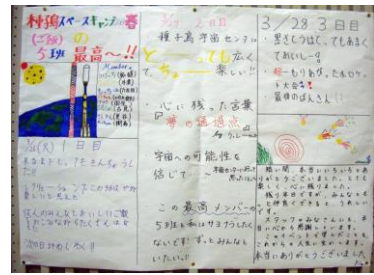
に関する授業や工作を行うとともに、JAXA職員との特別交流を行ないました。また、水ロケット競技など宇宙ホンモノ体験活動に加え、中種子町でのメヒルギ群生見学、黒糖づくり体験、ビーチコーミング（西之表市）など自然と歴史ある種子島の自然体験活動を通して環境問題を学習し、野外学習で

は、夜の天体観測を行い、美しい星空を見て楽しく星座や宇宙について学びました。

今回も、他青少年育成団体との連携強化を図るため、社団法人ガールスカウト日本連盟（鹿児島）にご支援をいただき、結果として、充実した献立を参加者に提供できました。



活動を振り返っての各班体験発表によって、参加者である子どもたちは、年齢や出身の異なる集団の中で学習し生活を共にすることによって、コミュニケーション能力や協調性の向上、さらにはお互いを思いやり助け合う心を育むことに繋がり、本キャンプを通じて身も心もひとまわり成長させる人気のキャンプです。



3 宇宙こどもワークショップ2012事業

本事業は、全国の青少年に対し、宇宙及び科学の楽しさや不思議さに触れ、子ども達の夢や希望を育むことを目的とし、宇宙をテーマとした体験プログラムや水ロケットコンテスト等を全国各地で行うものです。

(1) 日本水ロケットコンテスト2012

【目的】

(公財)日本宇宙少年団が Web で公開している水ロケットのノウハウや競技ルールなどのマニュアルを参考に、子どもたちに水ロケットの飛ぶ仕組みを学習させ、遠くまで飛ばす工夫(飛距離競技)や目標地点に飛ばす工夫(定点競技)を競うことにより、子ども達の好奇心や理解を高め、空へ自分の考えたものを飛ばすことへの夢や挑戦、チームワーク力を養うことを目的とします。

【大会名称】日本水ロケットコンテスト2012

※内容は、宇宙こどもワークショップ2012の一環で実施

【期間】各地域予選会 平成24年6月～9月

ブロック大会 平成24年6月～8月

全国大会 平成24年9月15日～16日

【場所】各地域予選会 各地域の科学館、大学、学校、その他

ブロック大会(ブロック割)

①北海道、②東北、③北関東、④南関東、⑤北信越、⑥東海、

⑦近畿、⑧中国、⑨四国、⑩九州、⑪沖縄

全国大会 銀河アリーナおよび隣接留保地、機体製作や交流会は
宿舎「若あゆ」

【参加対象】全国の小学4年生～高校3年生(大会参加者延べ1000名程度)

【参加人数】全国大会：こども33名、付添リーダー11名 計44名

予選会参加者総数723名、ブロック大会参加者総数1309名

【参加費】無料 ※ただし、往復交通費は各自負担

【主催】宇宙こどもワークショップ2012 実行委員会

構成：(公財)YAC、JAXA、相模原市、KU-MA

【後援】内閣府宇宙戦略室、文部科学省、経済産業省、全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人日本機械学会宇宙工学部門

【協力】銀河連邦サガミハラ共和国、ANA 全日本空輸株式会社

【実施内容】

全国を11地区に分けたブロック大会を行い、成績優秀者には全国大会進出権が付与されました。引率者を除き11地区から各3名、合計33名の地区代表者が参加し、「定点」による協議を行いました。地区大会においては、「定点」競技に加え「飛距離」競技についても行われました。全国大会の初日は、JAXA相模原キャンパスで「はやぶさ」の運用管制室、MSロケット、構造機能試験棟を見学したのち、



宿舎においてロケットの機体製作、レポート作成を行いました。その後、子ども交流会が開催され、チームごとに自己紹介、意気込みなどプレゼンテーションを行いました。SEL交流会では、地区大会の様子などについて発表が行われました。

2日目は、競技開始に際して前回優勝地区(東海地区)による選手宣誓、競技員によるルール説明後、60メートル先の目標地点を狙う定点競技が行われました。



競技終了後、的川泰宣先生による基調講演「『はやぶさ』を育んだ半世紀―糸川英夫生誕100年」

を参加者全員が聞いたのち、成績優秀なチーム3位までの「団体表彰」と成績優秀な個人を3位までの「個人表彰」を授与する表彰式が行われました。

また、水ロケットコンテスト全国大会において、一定の基準をクリアした中学2年生～高校1年生の選手の中から、上位2名をマレーシアで開催されるAPRSAF-19(アジア太平洋地域宇宙機関会議)水ロケット大会の日本代表の一員として、東海の竹内さんと沖縄の米原さんの参加が決定しました。

部 門	名前(所属地区)
団体	1位 東海地区
	2位 東北地区
	3位 北陸信越地区
個人	1位 堀(東海)
	2位 小山(東北)
	3位 武内(東海)
アイデア賞	片平(北関東)
デザイン賞	米原(沖縄)
レポート賞	糸村(沖縄)
匠賞	山本(南関東)

(2) その他ワークショップ

【大会名称】

宇宙こどもワークショップ2012

※内容は、日本水ロケットコンテスト 2012 の一環として、①～⑥のワークショップを行いました。

【目 的】

全国の子どもたちが宇宙をテーマにした体験プログラムや工作教室等を通して、科学の楽しさや不思議さに触れ、青少年の宇宙に関する興味や関心を高めることを目的とします。

【実施期間】平成24年9月16日(日)

【場 所】相模原市「銀河アリーナ」1F

【実施概要】

① 宇宙芸術友禅染め

友禅染の先生の指導を受けながら、小惑星探査機「はやぶさ」をテーマにした友禅染の作品を制作しました。



② モデルロケット製作・打上

本物のロケットと同じ原理で飛行するモデルロケットを製作し打上げることで、ロケットが飛ぶ原理を知り、安定して飛行するための方法を学びました。

③ ハイブリッドロケット映像・展示等

YACの高校生チームによるハイブリッドロケットの製作と打上げの体験発表やハイブリッドロケットの実機の展示、燃焼試験の映像等を紹介しました。

④ 飛行機の疑似操縦体験

フライトシュミレーターによる飛行機の疑似操縦体験を通して、どの翼がどのような働きをすることで飛行機がコントロールされるか等、体感してもらいました。

⑤ 基調講演

日本水ロケットコンテスト2012の参加者や一般を対象に「はやぶさ」を育んだ半世紀 ― 糸川英夫生誕100年」としての川泰宣先生の基調講演を行いました。

4 衛星データ利用事業

本事業は、平成21年度～23年度に文部科学省の研究開発委託事業で構築した学習プログラムであり、小中学生～高校生向けに、人工衛星のデータと専用ソフトを利用して自ら調査・分析に取り組むことのできる内容です。解析結果から、衛星データを身近にし、自ら考える力を養い、地球・生命の大切さや宇宙開発の意義などを学習するものです。

(1) 第2回衛星データ利用コンテスト

【目 的】

昨年に続き、全国の小中学生～高校生を対象に、人工衛星のデータに興味をもち、衛星データを利用することによって様々な発見を見つけ出し、更に自ら課題を持って探究する力を養うことを目的とします。

【実施期間】平成25年1月24日～3月末

【実施方法】ホームページによる募集

【実施概要】

用意された様々な衛星データの中から自分のテーマに沿った画像データを選び、その分析した結果をレポートに取りまとめます。応募の中から特に優れたレポートに対して、個人や団体に分けて表彰し、ホームページで紹介します。今回は、募集期間が短かったこともあり、平成25年5月31日まで募集を延期しました。

5 団体との連携事業

(1) 連携団体の連携協力

【目的】

財団と協力してYAC分団活動の推進を目的に分団からの相談、アドバイス、プログラムコーディネート等の支援を行います。

【実施概要】

新規分団の結成支援では、宇宙教育活動を「長く（活動を長く継続する）、広く（広く地域に拡大する）、深く（内容を深め、学びを深める）」実践するためのアドバイス、それに伴う必要な予算の確保のノウハウ提供、社会教育を実践する上で最低限の知識を学び、社会へ質の保障を行うためのSELセミナー受講のアドバイスを行い、また、地域主導型コズミックカレッジ開催のためのアレンジやアドバイスなどの支援を行いました。

平成24年度に分団結成に係る相談を受け、準備中を含め分団設立に至った分団は次のとおりです。

- 大阪分団：結団準備相談（平成25年4月14日結団予定）
- 千里分団（大阪）：結団準備相談（平成25年6月9日結団予定）
- 前橋分団：結団準備相談
- 花巻分団：結団準備相談
- 岡山桃太郎分団：結団準備相談（平成25年6月22日結団予定）
- 名古屋分団：再結団の相談
- すばる分団：活動再開の相談（平成25年4月28日活動再開）

（参考）

- 袋井分団（静岡）：平成24年5月結団
- 川崎分団：平成25年度より活動停止の通知

(2) 連携団体長会議

【目的】

年1回YAC分団長が集う場として連携団体長会議を設け、財団との連携協力の強化を図ることを目的にYAC分団活動が活性化するための方策を検討することや活動組織相互の情報交換等を行います。

【実施期間】平成25年2月2日～3日

【実施場所】JAXA筑波宇宙センター

【参加人数】分団長44名、オブザーバー14名

（苫小牧分団、札幌分団、釧路分団、みさわ分団、白河分団、こおりやま分団、つくば分団、佐野分団、館林分団、さいたま支部、ペガサス分団、千葉コスモス分団、千葉スペースボイジャー分団、たまご分団、分団サイエンスキッズ、みたか分団、未来MM分団、厚木分団、藤沢分団、相模原分団、金沢支部、金沢中央エンデバー分団、金沢北コロンビア分団、金沢南ディスカバリー分団、エンゼル分団、北アルプス大町分団、静岡磐田分団、浜松分団、袋井分団、すばる分団、大和まほろば分団、六甲分団、八雲ホシカミ分団、福山南ローズスター分団、呉やまと分団、徳島あすたむ分団、今治分団、愛媛松山ジェネシス分団、福岡分団、武雄分団、延岡分団、鹿児島島地方本部）

【実施概要】

千葉コスモス分団長小池淳平氏を議長に選出、公益YACから公益財団法人への移行、日本宇宙少年団連携団体規程、団員の入会及び会費規程について説明し質疑応答を行なった。また、活動委員会から年間活動、公財YACから平成25年度事業概要などについての報告を行なった後、ボーイスカウト連盟杉原正氏から「青少年団体の組織マネジメント」について特別講演があり、YAC理事を含めたパネルディスカッションを続けて行ないました。2日目は、各地区毎の協議会を開催、地区分科会テーマ（地区内の活動について/地区内の情報交換/要望事項等）について話し合わせ、その結果については、全体委員会で発表されました。

6 情報発信事業

(1) 宇宙教育テレビ

【目 的】

宇宙教育テレビを通して、子ども達が宇宙に関する知識を学び、宇宙への興味や関心を引きつけ、宇宙を身近なものとして親しんでもらうことを目的にJAXA宇宙教育センターと一緒に放送・配信します。

【タイトル】宇宙教育テレビ

【放送】月2回実施(第2、4木曜日)19時30分～20時30分

※ロケットの打上げなどがある月には、変更する場合があります。



【実施概要】

宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、放送番組の内容を立案し、その情報をインターネット番組で放送・配信します。番組には宇宙及び科学技術の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に向けて、分かり易く紹介していきます。また、番組中に子ども達からの宇宙に関する不思議や質問を書き込み形式でもらい、その質問に対し、専門家が直接回答をすることで番組の一体感（交流）を深めます。

(2) 宇宙情報誌の発行・編集協力等

【目 的】

JAXA宇宙教育センターと一緒に発行している宇宙情報誌「宇宙のとびら」に情報提供・原稿執筆や編集等の協力を行い、全国のYAC活動を広く一般に知ってもらうことを目的とします。また、YAC団員の特典として本冊子を配布することによって、子ども達の宇宙及び科学に関する知識の普及啓発をより一層促進することを目指します。

① 宇宙情報誌

宇宙及び科学技術に関わる最新の情報や科



学実験の紹介を子ども向けに紹介し、宇宙教育活動レポート、イベント情報等を掲載する情報誌の発行・編集協力を行いました。

【冊子名】「宇宙（ソラ）のとびら」

【発行等】発行・編集協力：財団法人日本宇宙少年団 発行回数：年4回（6，9，12，3月）

② ベネッセとの監修・企画協力

株式会社ベネッセコーポレーションの「進研ゼミ」小学4年生向け講座のサポート教材である星座早見盤および望遠鏡に関する監修・企画協力を行いました。

(3) ホームページ

【目的】

ウェブページでの情報発信を行うことにより、青少年を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を促進し、そしてインターネットを利用した宇宙教育活動を推進することを目的とします。

① 公益財団法人日本宇宙少年団のウェブサイト (<http://www.yac-j.or.jp>)

公益財団法人日本宇宙少年団の概要、沿革、団員募集、賛助会加入の企業・団体・個人など、業務・財務に関する資料、連絡先を掲載しました。

② 日本宇宙少年団団員活動コミュニティサイト (<http://www.yac-j.com>)

お知らせ、宇宙教育テレビ、メディアでの掲載記事、団員の活動予定、活動報告、活動ビデオ、イベント情報、教材研究を掲載しました。

③ スペース・キッズ・プラットフォームサイト (<http://www.yac-skip.jp>)

公益財団法人日本宇宙少年団が、企業、団体との連携により展開する事業の紹介。募集告知を掲載しました。

(4) Web の利用

【目的】

Webを利用して宇宙教育にかかわる様々な組織や団体との連携を潤滑にし、それぞれが研究・開発、作成した素材を相互活用できることを目的とします。

【実施概要】

宇宙教育の指導マニュアルや、活動教材を整備しWebサイトで公開します。その他、活動に役立つような情報、団員募集や催事参加の募集、そして旬な話題等、Webを通じて紹介しました。

7 教材事業

(1) 教材の製作及び発送

【目的】

団員に直接教材を送付することで、宇宙および科学技術に関する知識を高め、自分で考える力を身につけることや分団の活動に利用するばかりでなく、団員が家庭でもYAC活動が体験でき、また、共通体験を経験してもらうことを目的とします。

【期間】 9月（1件） 3月（4件） 計5件

【実施概要】

JAXA宇宙教育センターで製作する子ども向け配布教材の企画から試作に至るまでを当財団活動委員会（教材部会）が協力し、団員の子ども達に配布を行いました。

1. バルーンローバー
2. 羽で空を飛ぶ植物の種（スチロールグライダー）
3. 宇宙ノート
4. 超小型衛星特集
5. 人工衛星の秘密を探って君も研究者になろう



8 講師派遣事業

(1) 玉川高島屋「2012たまがわ宇宙展」

【目的】

広く一般の子どもを対象に宇宙及び科学技術の普及啓発を目的に子ども向け宇宙教室を行います。

【主催】 玉川高島屋S・C

【協力】 公益財団法人日本宇宙少年団

【内容】 宇宙教室の開催協力、講師派遣、教材協力、宇宙教育 TV ライブ中継

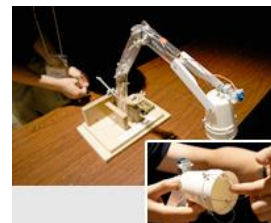
【期間】 平成24年7月25日～8月19日 このうち、7月25日、8月7日、8月11日は、YACから講師を派遣

【場所】 玉川高島屋S・C 西館1F アレーナホール

【特典】 入場無料券を100名分用意、団員パスポートを受付で見せると100名まで入場無料

【実施概要】

宇宙展の中の「Fゾーン:宇宙を身近に感じる」では、JAXA 星出宇宙飛行士のISSミッションに関連し、宇宙飛行士コミュニケーション訓練や宇宙ステーション組立などに使用するロボットアームの話、(教材)ロボットアームを使った操作体験を実施しました。



(2) 東京都両国地区体験活動

【目的】

両国地区PTAからの依頼で、緑小学校100周年記念としての行事として、宇宙及び科学技術の普及啓発を目的に児童生徒を対象にした宇宙教室を行います。

【期間】 平成25年3月10日

【場所】 墨田区立緑小学校 体育館

【参加人数】 参加者（小学生～中学生）140名

※低学年は保護者同伴 合計約180名

【主催】 両国地区小学校、中学校合同（二葉小、緑小、両國小、両国中）

【協力】 公益財団法人日本宇宙少年団

【実施概要】

東海大学坂田教授による講演とYACリーダーによる「Go to Mars Together」の話の後で、JAXA・YACの配布教材で制作したバルーンローバーの工作を参加者全員で行った後、体育館で製作したバルーンローバーを全員で目標まで走らせる競争を行ないました。



9 催事活動（後援等）

① 後援名義

（公財）つくば科学万博記念財団：「第15回全国ジュニア発明展」

② YAC ロゴマーク

金沢支部 金沢北コロンビア分団：「カレンダーの制作（団員・リーダー配布用）」

静岡すばる分団： 団員募集ポスター、団員募集ちらし、HP掲載

鹿児島地方本部：「スペースニュースかごしま第32号」リーフレット、ポスター

③ 学校推薦状の発行

香川小惑星分団：分団員5名の進学を希望する高等学校校長宛推薦状の発行

10 パネル等の貸出

宇宙関連イベントや分団が関わる催事に対して、YAC紹介パネルやユニフォームの貸出を行う等、YACの活動についてのPRを行いました。

II 運営

1 役員会

平成24年度の公益財団法人としての役員会を以下のとおり開催しました。

(1) 理事会

平成24年9月25日（火） 第1回 理事会

第1号議案 諸規程の制定について

第2号議案 平成24年度事業計画書について

第3号議案 平成24年度収支計画書について・

第4号議案 ユニフォームの設定について

平成24年10月18日（木） 第2回理事会

第1号議案 平成24年度（平成24年4月1日から平成24年7月31日まで）
事報告書及び決算報告書（旧財団）について

第2号議案 諸規程の制定について

第3号議案 個人情報保護基本方針（案）について・

第4号議案 日本宇宙少年団活動委員会委員名簿（案）について

平成24年12月14日（金） 第3回理事会

- 第1号議案 諸規程の制定について
 - 第2号議案 平成25年度事業及び予算の概要について
 - 第3号議案 基本財産預及び公益目的事業積立預金について
 - 第4号議案 会社役員賠償責任への加入について
 - 第5号議案 外部組織の会員加入の見直しについて
- 平成25年3月15日(金) 第4回理事会
- 第1号議案 諸規程の制定について
 - 第2号議案 平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - 第3号議案 活動委員会委員候補者の選定について

(2) 評議員会

- 平成24年10月18日(木) 第1回 評議員会
- 第1号議案 評議員会運営規則について
 - 第2号議案 平成24年度(平成24年4月1日から平成24年7月31日まで) 事報告書及び決算報告書(旧財団)について
- 平成25年3月18日(月) 第2回 評議員会
- 第1号議案 平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - 第2号議案 評議員の交代について

2 経理概況

「公益目的事業会計」における事業活動収入は、会費収入1,123万円(団員会費収入449万円、賛助会費収入674万円)、寄付金収入142万円、事業収入1,102万円のほか、合計2,378万円の収入がありました。これに対し、事業活動支出は、事業費支出2,093万円となり、収支差額は285万円でした。

一方、「法人会計」の管理費は、公益目的事業会計からの収入で賄われているため0円となっており、今年度の管理費支出は、843万円でした。

よって、公益目的事業会計の収支差額285万円との差引は、▲558万円となり、今年度の決算は赤字となりました。

管理費支出の主な内訳として、人件費(法定福利・諸謝金含む)393万円、交通費(職員・役員旅費・外勤含む)64万円、公益会計ソフトの改修費63万円、事務維持費(家賃・水道光熱費・インターネット等通信費・機器等リース・保守・修繕等)199万円、公益用パンフレット・ちらし印刷・消耗品等94万円、役員会議開催13万円、雑費等17万円となりました。

3 業務執行体制

平成25年3月31日現在の体制状況は、理事7名(非常勤)、監事2名(非常勤)、評議員11名(非常勤)、事務局員(非常勤2名)という構成です。

4 活動委員会の設置

全国のYAC分団や団員が取り組める共通プログラムの企画立案や分団活動の活性化のため活動委員会を設置してYAC分団と理事会相互の連携を図ります。旧財団の運営委員会の体制を引き継いでいるものです。

平成24年10月27日(木) 28日(金) 第1回 活動委員会

- 第1号議案 連携団体規程(案)について・
- 第2号議案 団員の入会及び会費規程(案)
- 第3号議案 宇宙こどもワークショップ2012の反省と今後について
- 第4号議案 日本宇宙少年団連携団体長会議の準備について
- 第5号議案 2013年からの新しい体制に向けての検討
- 第6号議案 今後の宇宙教育指導者育成のあり方
- 第7号議案 今後の宇宙教材開発のあり方

平成24年12月22日(土) 第2回 活動委員会

- 第1号議案 第3回財団理事会結果概要について
- 第2号議案 JAXAとの確認書について
- 第3号議案 次年度の配布教材について
- 第4号議案 連携団体長会議について
- 第5号議案 水ロケットコンテストの現状報告について
- 第6号議案 第2回衛星データコンテストについて
- 第7号議案 商標登録に関する問い合わせについて資料5
- 第8号議案 ラビット手法の商標登録について
- 第9号議案 平成25年度版社会教育指導者セミナー「A」の検討について
- 第10号議案 YACトピックス(1月～3月)について

平成25年2月1日(金)～3日(日) 第3回 活動委員会

- 第1号議案 連携団体長会議について・
- 第2号議案 来年度の活動計画について
- 第3号議案 平成25年度以降のJAXAとの調整事業について
- 第4号議案 水ロケット大会について
- 第5号議案 分団表彰について
- 第6号議案 スクールYACにつて
- 第7号議案 次年度の活動委員会の決定方法について

平成25年3月2日(土) 第4回 活動委員会

- 第1号議案 連携団体規定第28条の取り扱いについて
- 第2号議案 保険について
- 第3号議案 水ロケットコンテストについて
- 第4号議案 分団表彰について
- 第5号議案 会費値上げの説明文書について
- 第6号議案 2013年度以降の活動委員会委員と2013年度の活動について
- 第7号議案 その他

5 団員及び分団

平成24年度における団員数は、8月当初の時点で団員数2,743名、指導員数683名、合計3,426名であったところが、平成25年3月末の時点で、団員数2,899名、指導員数675名、合計3,574名となりました。平成24年度においては、団員は156名の増、指導員は8名減となりました。全体で148名の増加となりました。また、分団数は、3月末の時点で140分団、平成24年5月に静岡の袋井分団が新しく結成され、平成25年4月1日付けで川崎分団が解散することになりましたので、平成25年4月1日現在の分

団数は139分団となっています。

6 会員へのサービス

会員および団員の増加を促進する方法として、新規に家族会員制度を導入しました。また、会員の意見を出来るだけ取り入れながら、活動を支援する方法や新しいサービスについて検討も行ってきました。特に、JAXAとの協働でWebを使ったサービスについて具体案を作成しました。できれば、平成25年度には実現に向けて着手できるようにしたいと考えています。

7 寄附金税制、活用の推進

特定公益増進法人としてのYACに対する寄付金については、特別な税制優遇取り扱いが可能となります。特定目的の寄附金などを募ることによって、効果的な活動が実施できるようにしたいと考えています。また、これらの寄付金については、会員等への支援とする活動に対して活用します。

8 YACパンフレット、入団案内

新たに公益財団法人日本宇宙少年団となったことに伴い、財団の説明や事業活動の紹介用としてYACパンフレットを製作しました。パンフレットには、JAXA宇宙飛行士の「YAC大使」としての応援メッセージを掲載しました。

また、パンフレットとは別に新規団員獲得のため入団案内ちらしを制作し、各種イベントで配布するほか、分団の募集ちらしとして活用してもらうためデータで配布するなど、団員獲得への活動を行いました。

9 賛助会社

平成24年度におけるYACの活動に対して賛助を戴いた会社は以下のとおりです。(アイウエオ順)

株式会社 IHIエアロスペース
株式会社 IHI
宇宙技術開発株式会社
株式会社 エイ・イー・エス
沖電気工業株式会社
公益財団法人 大澤科学技術振興財団
川崎重工株式会社
倉敷科学センター
株式会社 コスモテック
株式会社 ジーコモ
株式会社 スペースサービス
公益財団法人 セコム科学技術振興財団
株式会社 清和設備設計
TIS株式会社
ダイコク電機株式会社
中菱エンジニアリング株式会社
東京美化株式会社

日本電気株式会社
HIREC株式会社
株式会社 ビー・シー・シー
株式会社 日立製作所
株式会社 富士コスモサイエンス
富士通株式会社
三菱重工株式会社
三菱電機株式会社
一般財団法人 リモートセンシング技術センター